

《平成 12 年度下半期浮魚中長期漁海況予報》

平成 12 年 10 月に、東シナ海から日本海にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開かれました。今月はこれをもとに、平成 12 年度後期（H12 年 10 月～H13 年 3 月）の中長期的な漁況の予測をします。

マアジ当歳魚加入量増加！来春の漁に期待！

大中型まき網による東シナ海から日本海南西海域におけるマアジ漁獲量（図 1）は、昭和 55 年以降増加傾向にありましたが、平成 7 年以降は減少傾向にあります。東シナ海～日本海西部を主漁場とする大中型まき網の平成 12 年 1 月～9 月までの漁獲量（31,634 トン）は、前年同期（26,402 トン）をやや上

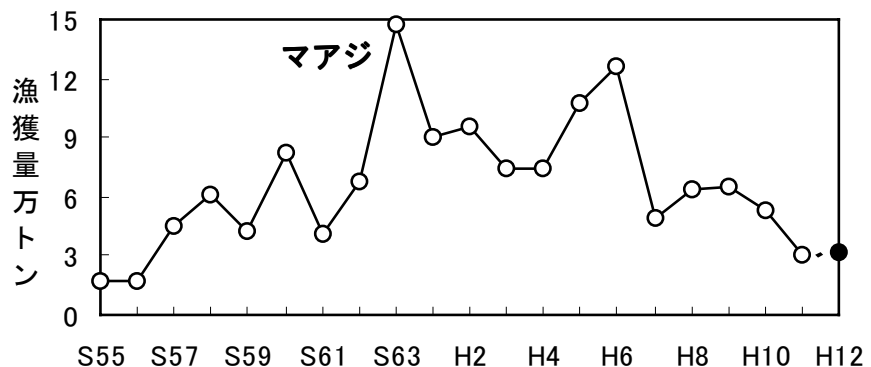


図1 大中型まき網による東シナ海～日本海西部におけるマアジ漁獲量(H12年は9月までの集計)

回っています。漁獲物の銘柄は、ゼンゴ（1 歳魚）、小（2 歳魚）が主体で、マアジ漁獲量の 9 割を占めていました。また、九州～山陰までの沿岸域における今年の春～秋にかけての漁獲量は、海域によって差はあるものの概ね前年をやや上回っています。

今期の島根県沖のマアジ漁獲量は、調査船による試験操業などの結果から、東シナ海～日本海西部での当歳魚の加入状況が比較的良好であることから、春から夏にかけての漁は不漁だった前年を大きく上回るのではないかと考えています。

マサバは期待薄！？

東シナ海～日本海西部を主漁場とする大中型まき網によるマサバ漁獲量（図 2）は、平成 8 年以降減少傾向にあります。平成 12 年 1 月～9 月までの漁獲量は、前年同期の 73%と、不漁であった前年をさらに下回りました。

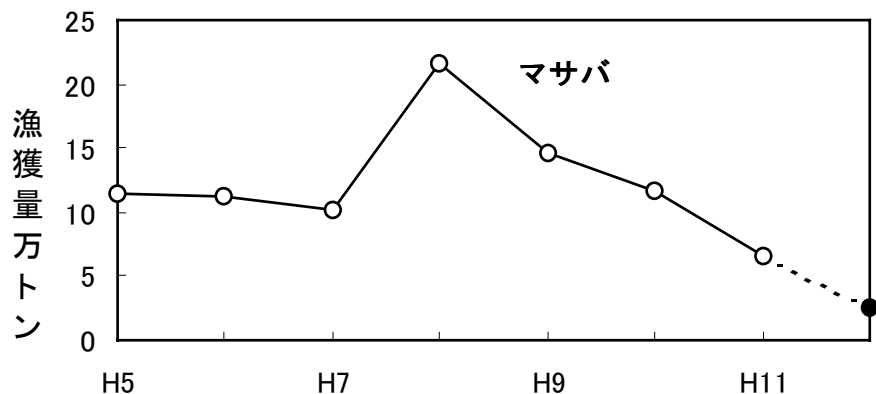


図2 大中型まき網による東シナ海～日本海西部におけるマサバ漁獲量(H12年は9月までの集計)

平成 12 年 9 月の銘柄組成をみると、当歳魚の割合が前年を下回っており、加入量は

少ないと予想されます。秋以降の島根県沖での漁獲は前年、平年を下回ると考えています。

マイワシ依然低迷！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向で、平成11年は前年に比べやや増加したものの、平成12年8月現在、前年を下回っています。海域によっては、まとめて漁獲されることもありましたが、広範囲に漁場が形成されることはありませんでした。島根県では隠岐・島根半島海域でわずかながら漁獲があったものの、当歳魚の発生量は少ないと考えられ、今後の漁獲もあまり期待できないと思われます。

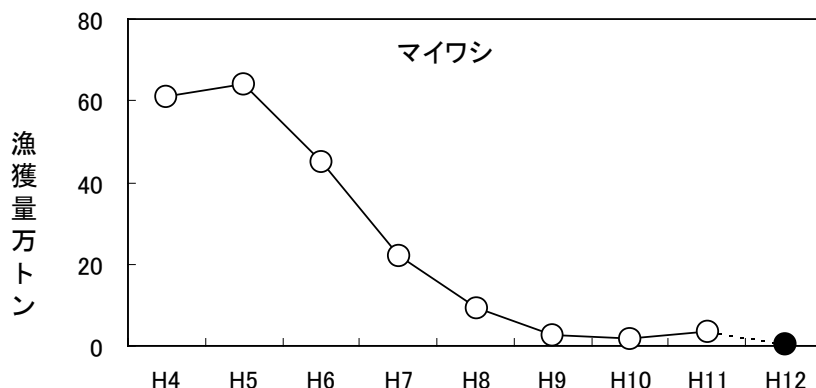


図3 島根～青森までのマイワシ漁獲量の変動
H12年は8月までの集計

カタクチイワシ依然高水準！

島根県から青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にあります。平成12年8月までの漁獲量は前年を下回っていますが、9月以降の漁獲も期待されるため、平成12年は近年並の漁獲が予測されます。当歳魚の発生量は前年を下回る可能性もありますが、依然として高い水準であると思われます。

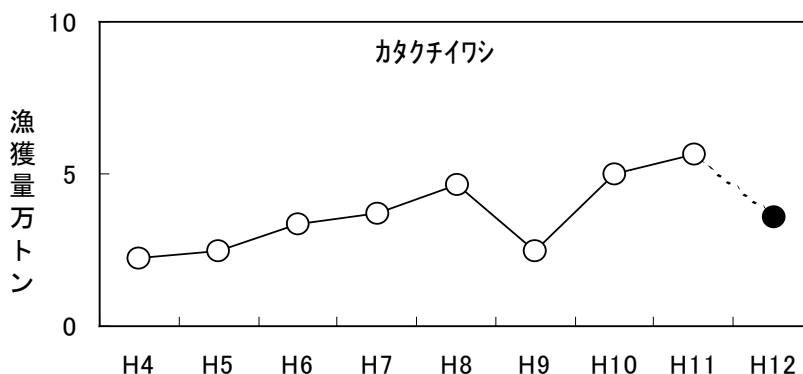


図4 島根～青森までのカタクチイワシ漁獲量の変動
H12年は8月までの集計

島根県沖の漁獲時期は冬期にピークが見られることから、冬期を中心として活発な漁場が形成されるのではないかと期待しています。

ウルメイワシ減少！

島根県から青森県のウルメイワシの漁獲量(図5)は近年低水準にあります。平成12年8月までの集計では、前年同期の24%と大きく下回りました。水産研究所などが行った試験操業などの結果から、今年の当歳魚の発生量も非常に少ないということから、秋以降の漁もあまり期待できないと思われます。

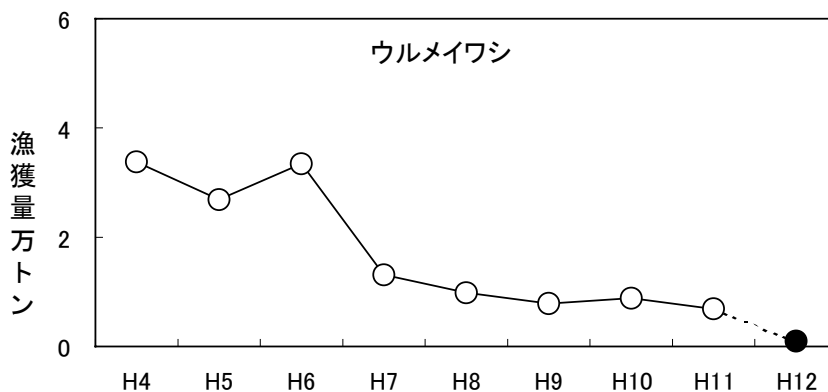
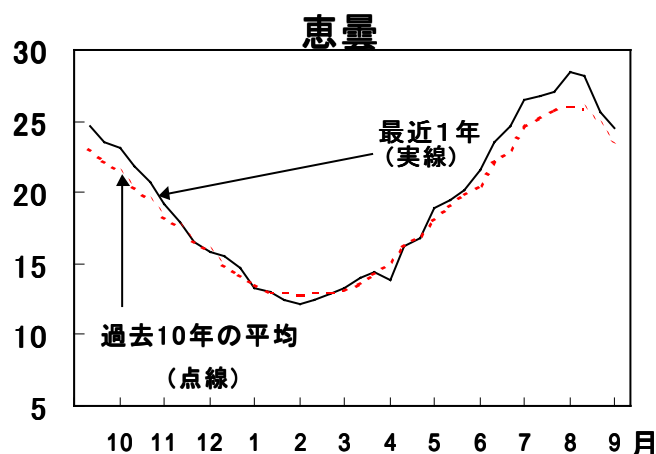
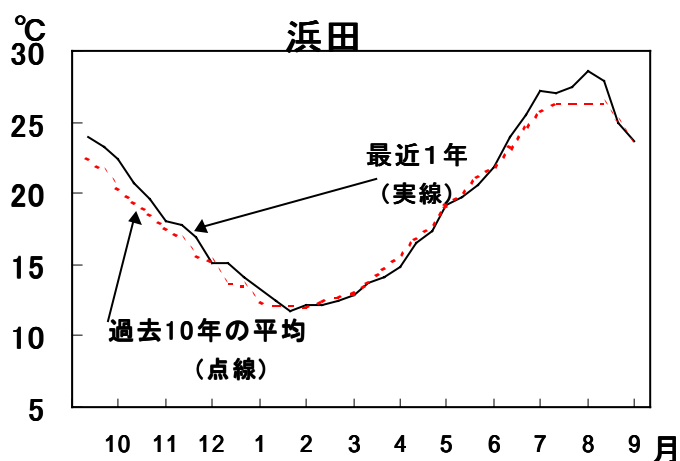


図5 島根～青森までのウルメイワシ漁獲量の変動
H12年は8月までの集計

《 9月の海況 》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	25.5	+0.5	平年並み
恵曇	26.1	+1.4	やや高め

9月の月平均水温は8月に比べ浜田で2.2、恵曇では1.3 下降しました。浜田は「平年並み」、恵曇では「やや高め」の水温経過となりました。



9月下旬～10月上旬の海洋観測結果によると、表層では山陰沿岸部から隠岐諸島にかけて水温 25 以上の暖かな水塊に覆われていますが、沖合から冷水域が島根半島西部に向けて張り出す傾向にあります。中層以深でも山陰沿岸部から隠岐諸島にかけては暖水域に覆われていますが、隠岐諸島西方 80 マイルの冷水域の勢力が先月よりも強くなってきており、底層ではこの冷水域が日御崎沿岸に接岸する傾向にあります。先月と同様に、冷水域と暖水域の境界に沿って非常に強い潮境が形成され、潮境に沿った流れが強くなっています。

《 9月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に 525 トン、水揚金額は 7,600 万円でした。1 統当りの漁獲量は 131 トンで前年の 46%、平年の 49%と、平年、前年を大きく下回りました。水揚金額は 1,902 万円と前年をやや下回りました。恵曇では、マアジ、カタクチイワシ主体に総漁獲量 260 トン、水揚金額は 3,582 万円でした。1 統当りの漁獲量は 37.1 トン(前年比: 32%)、水揚金額は 512 万円(前年比: 44%)と低調に推移しました。浦郷ではマアジ、カタクチイワシ主体に総漁獲量 680 トン、水揚金額は 7,870 万円でした。1 統当りの漁獲量は 136 トン(前年比: 30%)、水揚金額は 1,574 万円(前年比: 61%)と低調に推移しました。恵曇と浦郷ではマサバ、マイワシが前年に比べ大きく落ち込んでいます。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船(5トン以上)によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカを中心に 166 トン(前年比: 118%)とやや好調に推移しました。ケンサキイカとスルメイカの割合は量で 20:1、金額では 80:1 となっています。魚体は、2 段半～3 段半(外套長 15cm～20cm)が主体でした。一方、西郷のイカ釣り船(5トン以上)では、スルメイカ・ケンサキイカを中心に 46.3 トンの漁獲(前年比: 70%)で、こちらはやや低調でした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は 392 トン、総水揚げ金額は 1 億 6,435 万円でした。また、1 統当り漁獲量は 65.3 トン(前年比: 107%)、水揚げ金額は 2,739 万円(前年比: 81%)でした。ケンサキイカ(前年比: 284%、

平年比：147%)・アカムツ(前年比：274%,平年比：652%)・ニギス(前年比：190%,平年比：273%)は、まとまった漁がみられました。一方、恵曇港の総漁獲量は164トン、総水揚げ金額は9,096万円でした。また、1統当り漁獲量は41.1トン(前年比：108%)、水揚げ金額は2,274万円(前年比：117%)でした。ケンサキイカ(前年比：355%,平年比：215%)・ムシガレイ(前年比：181%,平年比：196%)は、まとまった漁がみられました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協ではアカムツ、ケンサキイカ、大田市漁協ではニギス主体の漁となっています。1航海当たり漁獲量は両漁協とも前年を2~3割、水揚げ金額では和江漁協が1割、大田市漁協が僅かに前年を上回っています。アカムツ、ヤナギムシガレイ、アナゴ類、ケンサキイカ、ヤリイカは前年の10~2倍以上の水揚げがあり、好漁となっています。特にアカムツは小型ではありますが、各漁協で水揚げされており、既に前漁期の漁獲量を上回る105トンの水揚げがあります。

【定置網漁業】

浜田港ではサワラ、カワハギ類、マアジの漁獲量が急増し、総漁獲量は前月の4倍近くに達しました。生産金額は4割増にとどまっています。昨年も9月にサワラのまとまった水揚(26トン)がありましたが、10月以降は急減しています。恵曇港ではケンサキイカとウルメイワシの漁獲量が急減したことから水揚げ金額は前月の4割、昨年、一昨年と比較しても5割程度でした。浦郷港ではサバ類の漁獲量が急増し、全体の8割を占めました。生産金額は、前月を4割下回りましたが、昨年、一昨年と同程度でした。

【釣・縄】

浜田港、五十猛港ともケンサキイカが漁獲の主体ですが、漁獲量は前月に比べて減少しています。浜田港では、アマダイが減少したものの、ブリ類の漁獲量が増加し、ほぼ平年並の漁模様となっています。一方、五十猛港では出漁日数が大幅に減少したこともあり、平年の4割程度の漁獲となっています。

漁獲統計

平成12年9月1日~30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	37	マアジ	14ト	525ト
	恵曇	43	マアジ・カタクチイワシ	6ト	260ト
	浦郷	46	マアジ・カタクチイワシ	15ト	680ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	944	ケンサキイカ・スルメイカ	176Kg	166ト
	西郷	416	ケンサキイカ・スルメイカ	111Kg	46.3ト
沖合底びき網	浜田	36	ケンサキイカ・ニギス・アカムツ	10.9ト	392ト
	恵曇	43	ケンサキイカ・ムシガレイ	3.8ト	164ト
小型底びき網	和江	504	アカムツ・ケンサキイカ	755Kg	381ト
	大田市	338	ニギス	671Kg	227ト
定置網	浜田	68	サワラ・カワハギ類・マアジ	1,141kg	77.6ト
	恵曇	44	カワハギ類・カマス・マアジ	201kg	8.8ト
	浦郷	19	サバ類	1,236kg	23.5ト
釣・縄	浜田	1,039	ケンサキイカ・アマダイ・ブリ類	20kg	21.1ト
	五十猛	265	ケンサキイカ・マダイ	18kg	4.8ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。